

第11回 日・アセアン経済大臣会合(AEM-METI)
共同記者発表
(仮訳)

2004年9月4日
インドネシア ジャカルタ

1. (略)

【日アセアン貿易・投資関係】

2. (略)

3. (略)

【日アセアン包括的経済連携(AJCEP)の枠組みの下での作業の進展】

4. 閣僚達は、日アセアン包括的経済連携委員会(AJCCEP)が、「枠組み」の下で様々な分野、セクターに関する協議及び交渉の場となることとした、AJCCEPの付託事項(TOR)の改訂、また原産地規則作業部会の設置を歓迎した。閣僚達は、議論を進めているAJCCEP及び作業部会の作業の進展に留意した。

5. 「日アセアン包括的経済連携の枠組み」の下での最新の進捗状況が、以下の項目に焦点を当てて首脳達に報告されるべきであることが合意された。

- －日アセアン累積原産地規則のフレームワーク
- －日アセアン包括的経済連携(AJCEP)協定の想定されうる基本的構成と主要な項目
- －「早期実施措置」の実施結果
- －「円滑化及び協力」の作業計画

6. 閣僚達は、日アセアン双方がAJCEP協定の交渉を開始することを

可能にするため、AJCCEPが原産地規則作業部会に2004年11月のビエンチャン首脳会合までにAJCEP累積原産地規則のフレームワークを作成させていることを、承認するとともに留意した。

7. 閣僚達は、2004年10月にベトナムで開催されるアセアントレードフェア及び2004年11月にラオスで開催されるアセアン首脳会議の際に行われる、「早期実施措置」の一つとしての日アセアンビジネスダイアログを歓迎した。閣僚達は、このようなビジネスダイアログが日アセアン間の貿易・投資関係を拡大するという点で一致した。閣僚達は、民間部門も日アセアン CEP 協定について議論することについて評価するとともに留意した。
8. これらの成果を踏まえ、閣僚達は、日本とアセアンが2005年4月からAJCEP協定の交渉を開始すべきことを首脳達に対し提言することに合意した。また、閣僚達は、開始日から2年以内に交渉を終了するよう努力することを決意した。
9. したがって、閣僚達は、2004年11月のビエンチャン・サミット及び交渉の開始日を念頭に置いて、AJCCEPに対し、あらためてその作業を強化し、この目的を達成するための最も適切な進め方と最も適切な会合スケジュールを決定するよう指示した。
10. 閣僚達はまた、AJCCEPに未解決の問題を解決することを指示した。閣僚達は、AJCCEPに、AJCEP協定と現在進行中の日本とアセアン各国との二国間EPA交渉の間の、両立しうる整然とした関係について探究することを指示した。
11. 閣僚達は、2003年のプノンペンにおけるAEM－METIにおいて日本が提案した日アセアン経済連携協力のための協力の着実な実施と進展を歓迎した。貿易及び投資に関する連携を強化し、競争力と産業協力を強化し、新規加盟国を支援するため、日アセアン包括的経済連携の実現の加速化を促進する様々なプロジェクトが進行中である。

12. また閣僚達は、アセアン経済統合を加速化し、日アセアン経済連携を強化するための日本の新たなイニシアティブ(『アセアン内/日アセアン経済統合に向けた協力』)を歓迎した。本イニシアティブの下で、日本は以下の分野でアセアンを支援する。

(i) 貿易投資円滑化支援:

RFID(Radio Frequency Identification あるいはICタグ)を活用した、想定されうる日アセアン貿易関連電子化システムを構築するメリットについての意見交換、電子商取引を推進する技術基盤の確立のための協力 等

(ii) 新規加盟国に対する協力支援:

人材育成支援、技術基盤強化支援、産業・物流ネットワークの構築支援、貿易・投資の促進支援 等

(iii) アセアン経済統合に向けたアセアン各国の産業基盤強化支援

人材育成支援、自動車・中小企業・IT分野における支援制度の構築、産官学連携によるイノベーション推進支援 等

【日アセアン経済産業協力委員会(AMEICC)】

13. 日アセアン経済産業協力委員会(AMEICC)は、第11回日アセアン経済大臣会合の一部として開催された。閣僚達は、AMEICCの下でプロジェクトが適時、かつ効果的な方法で実施されていることを評価しつつ留意した。特に、閣僚達は、アセアンにおけるCOEs(中核的人材育成機関)の更なる強化とネットワーク化を目的とした日本の新たなイニシアティブ「COE発展プログラム」を歓迎した。閣僚達は、「AMEICC自動車イニシアティブ」が11優先分野におけるアセアン統合を積極的に支援することに対し満足しつつ留意した。また、閣僚達は、CLMV諸国間の産業・物流ネットワークの構築を通じ、アセアン諸国間の開発格差を縮小するための「西東回廊包括的産業開発プログラム」を歓迎した。

14. 閣僚達は、すべての AMEICC のワーキンググループに対し、

AMEICC 作業計画の下での各プロジェクトの実施、および貿易投資の円滑化や振興のための活動の拡大をさらに加速させるよう、奨励した。閣僚達は、AMEICCが効果的かつ効率的にアセアン経済統合を促進し、AJCEPプロセスを加速し、東アジア共同体に向けた準備を支援することができるよう、SEOM－METI及びAMEICC事務局に対し、AMEICCの発展的改革に向けた検討作業を今後1年にわたって進めるよう指示した。

【その他の分野における協力】

15. 閣僚達は、2004年6月、フィリピン・マカティシティにて開催された第5回日アセアンエネルギー高級事務レベル協議(SOME－METI)が、エネルギーデータベースの更新や省エネルギープロジェクトの第二段階を開始したことを歓迎した。

以上

閣僚リスト

- (i)ブルネイ:ラーマン産業・一次資源大臣
- (ii)カンボディア:チャム・プラシッド商業大臣
- (iii)インドネシア:リニ・スワンディ商工大臣
- (iv)日本:中川昭一経済産業大臣
- (v)ラオス:スリヴォン商業大臣
- (vi)マレーシア:ラフィダ通商産業大臣
- (vii)ミャンマー:ティン・ウイン AEM 担当大臣
- (viii)フィリピン:アキノ貿易産業次官
- (ix)シンガポール:リム・フンキアン通商産業大臣
- (x)タイ:ワタナー商務大臣
- (x i)ベトナム:チュオン・ディン・トゥエン商業大臣
- (x ii)アセアン事務局:オン・ケン・ヨン事務局長